

# 私の 随想録



今回のライター

遊佐 隆信さん

— Takanobu (本宮)  
Yusa —



趣味は音楽とサーフィン。体力づくりのためにトライアスロンにも取り組んでいます。



## 「本宮を楽しむ!」

**私**は生まれも育ちも本宮で、学生時代を除いてずっと本宮で生活しています。以前は町

だった本宮も平成19年に本宮市となり、現在は福島へのそのまことして、ゆるキャラまゆみちゃんへのそしにもつながっているところがとても素敵な本宮市だと思っています。

本宮市はどこへ行くにも便利で、私は20年以上波乗りをしに海まで出かけていますが、これも交通網の良さがあるからこそ続けられるのだと思います。また、ソフトボールや野球のチームにも所属して活動していますが、これも本宮市では非常に活発で、いずれも市町村対抗試合において好成績を残しています。ほかに本宮ロードレースというマラソン大会を開催しており、私も毎年参加させていただき、大変苦しい思いをさせていただいております。さらには、温水の市民プールも整備されておりますので、そこでも週

に何度か苦しませていただいているところです。

このようにスポーツ環境にも恵まれているため、大変有意義な毎日を過ごすことができている。

しかし、運動ばかりしていると疲れてくるので、読書をするようにしています。読書をするとうまく良くなった気がしますが、今のところあまり実感がないのもう少し様子を見ていきたいと思っています。

何をするにも本宮市は素晴らしいところですよ。これからも本宮市の良さを楽しんでいきたいと思っています。

10月号は私が書きます!



次回は渡辺一俊さん(稲沢)です

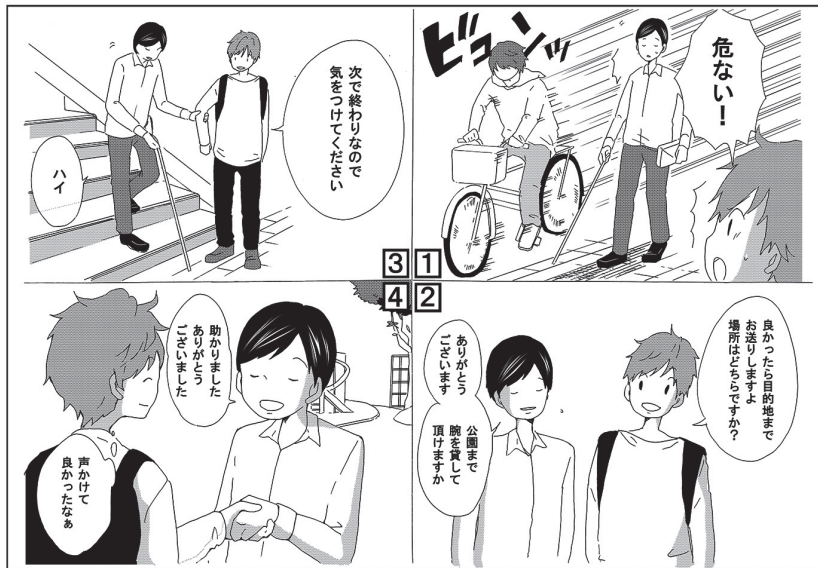
# 福祉まんが つむぐこころ おりなすはなし

第1話

原案：あだち地方地域自立支援協議会  
生活支援部会

絵：国際アート&デザイン専門学校  
マンガクリエイト科  
武田春香/齋藤幸佑

～視覚障がいを持つ人に出会ったら～



## まんがが変わりました！

4月から連載している福祉まんがは、今月号より「しあわせのたまご」から「つむぐこころおりなすはなし」に変わりました。イラストは、国際アート&デザイン専門学校マンガクリエイト科の武田さん齋藤さんが描いています。タイトルは、『いろいろな人が心を通わせて、いろいろな物語を創っていきたい』という思いで作りました。

※障がいは多種多様であり、同じ障がいでも一人一人状態が違います。このマンガの内容は一例です。

### あだち地方地域自立支援協議会とは？

本宮市・二本松市・大玉村の2市1村で構成され、地域の障がい福祉に関わる関係者の連携や支援体制などについて協議を行う会です。

問 社会福祉課 社会福祉係 ☎ 24-5371

視覚に障がいのある人が外出する方法としては、「ガイドヘルパー」、「白杖」、「盲導犬」などがありますが、みなさんの声掛けや行動で、安心・安全に暮らせる地域につながります。

人は五感でさまざまな情報を得ていますが、特に視覚からの情報量は全体の8割と言われています。視覚障がいといっても全盲（まったく見えない）や弱視（矯正しても見えにくい）など見え方や見えにくさは、人によつてさまざまです。



生活支援部会  
赤沼 浩太さん

## 住まいるもとみや

一本宮市での暮らし



遠藤靖大さんご一家

靖大さんは糠沢、妻の聡子さんは本宮の出身。長男蒼空くん、長女那南ちゃん、煌空くんと5人暮らし。長男の小学校入学のタイミングでUターンされました。

移住・定住ポータルサイトでは、本宮市内の不動産や仕事、子育て情報、移住者の声などを掲載しています。  
<http://www.city.motomiya.lg.jp/site/teijyu/>



■故郷にUターン  
夫婦どちらも本宮市の出身で、結婚後は市外に住んでいましたが、1年半前に長男が小学校に入学するタイミングで本宮に家を構えました。  
いつかは地元に戻ろうと考えていましたし、実家やお店が近かったり、子どもたちが遊ぶ場所がたくさんあるので、地元に戻ってき

てよかったですと思っています。しいて言うなら、子どもが3人いるので小児科のクリニックがもつとあるとうれしいです。  
■Uターンの魅力  
Uターンは、住み慣れた場所で安全で安心して子育てできるメリットがあると思います。本宮は、子育てしやすい環境も整っていますよ。

